

彦根に住む外国人の皆さんへ 情報を伝える (市人権政策課)



いろんな思いが詰まった「外国語版広報ひこね」 外国人住民の方とのコミュニケーションのきっかけに

19年前、「VOICE」という市内のグループが市の広報紙を翻訳して、外国人住民に配布することを始めました(現在は市が行っています)。私はその時からずっとポルトガル語の翻訳をしています。想像してみてください。それまで外国人住民は何の情報もなかったんです。「読めない」「分からない」ということがどんなにつらいことか。私も来日して、東京に約10年間住んでいたときは、言葉が通じないなど、大変な苦労をしました。同じような気持ちになって、どうしたら分かりやすく翻訳できるのか一生懸命考えています。

翻訳という仕事は、「言葉を通じて文化を伝える」ものだと思います。そうくりそのま

ま訳すなら、コンピュータでもできますからね。特に日本の文化は、外国人にとって分かりづらかったり、意味が深かったりすることが多いので、自分がちゃんと日本語を理解した上で、翻訳作業をするようにしています。外国人の方が広報紙を読んで、内容を理解した上で、「これはどうしたらいいの？」などの質問を窓口までしに来てくれたときは、読んでくれたんだ、分かってくれたんだ、と本当にうれしくなります。

毎号、市の情報をたっぷり掲載している外国語版ですが、残念ながらまだ知らない人も多いため、本当はもっと活用してほしいです。しかし最近では、ある自治会の方が窓口に来られ

ポルトガル語担当
奥村 ルシア さん



外国語版広報ひこね
(16 ページ)
(左から) ポルトガル語、英語、中国語



ほんやく 翻訳



英語担当
山川 哲 さん

誰にでも分かりやすく

外国人と日本人がともに理解を深め、尊敬し合うことができる社会に向けて、貢献したいと思っています。翻訳では、直訳や難しい単語・表現はできるだけ避け、国籍に関係なく誰にでも分かりやすく伝えるようにしています。

母国の生活習慣なども考慮

日本語をそのまま翻訳するのではなく、理解してもらいやすい単語や表現を選んでいきます。さらに、読んでくださる方の母国の生活習慣、風習や制度などを考慮することも大切だと思っています。



中国語担当
山口 智子 さん

同じ目線で

日本語とポルトガル語は、言葉によって翻訳しきれない部分があって難しいです。(読者の方と)同じ目線になって、分かりやすい言葉で、伝えるようにしています。



ポルトガル語担当
大橋 季代子 さん

外国人をサポートしたい

外国人住民の皆さんのサポートをしたい、日本人住民の皆さんに外国への理解を深めてもらうきっかけになりたいと思っています。日本語もまだ勉強中ですが、情報を正確に伝えるように気を付けています。



ポルトガル語担当
オカモト・ジュリア・ユリ さん

3か国語(英語・ポルトガル語・中国語)への
通訳や翻訳など、詳しくはこちらへ↓

問い合わせ先 市人権政策課
☎ 30-6113, FAX24-8577

※ facebook (https://www.facebook.com/tabunkahikone/)での情報発信も行っています。

特集

「伝える」ということ

伝えたい人がいる、伝えたいことがある

市では、広報紙やホームページ、アプリやSNS(交流サイト)などで市政情報を発信しています。他にも、さまざまな機関・団体などと、情報発信のための連携・協力をしています。

今回の特集では、その中でも、視覚障害のある人や外国人に向けて情報を伝えている皆さんや、コミュニティ放送で地元情報を伝えている皆さんに、「どんな思いを持って、どのように伝えているのか」などをお聞きしましたので、その内容を紹介します。

問い合わせ先 市広報課 ☎ 30-6103, FAX22-1398

視覚障害のある皆さんへ情報を伝える (滋賀県立視覚障害者センター)



▲滋賀県立視覚障害者センターのスタッフの皆さん

レイアウトを工夫して、読みやすく分かりやすい点字に

点字は、本や雑誌、広報紙など、さまざまな活字を点字に訳する仕事です。点字は活字と違い「大きい文字」や「カラーの文字」はありません。書き始める位置を変えることで、大きな見出し、小見出しという区別をつけています。このレイアウトが、点字にはとても重要です。

現在は、「パソコン点字」が一般的になっていて(写真①)、点字をデータ化することにより、滋賀で作った点字が全国どこでも読んでもいただけるようになりました。

点字の本を読んで、「この本はおもしろかった。3回も読んだよ」と言ってくれたり、「点字時刻表のおかげで遊びに行けた」とお話を伺ったりすると、点字担当者をしていて良かったなと思います。

▲点字の広報ひこね



脇野 幸子 さん

おんやく 音訳

「音」は情報を収集する上で大事な手段

音訳は、本や市町の広報誌・手紙など、書かれた文字や印字された文字を、音に変える仕事です。実は点字を読めない視覚障害のある方は大勢いて、「音」は情報収集する上で大事な手段になっています。パソコンに録音した音声は(写真②)、CDなどの媒体で提供しています。

例えば、「かきにちゅうい」と音で聞いた場合、「柿」「牡蠣」「火気」「下記」はいずれも同じ音になります。間違った情報として伝わらないよう、正しいアクセントを調べたり、漢字の文字の説明を入れたりしています。広報誌などでは、日時や電話番号などを、スピードを落として読むなど、より伝わりやすい読み方を心がけています。「大好きな読書を楽しむことが出来るようになった」「毎日の生活が豊かになった」などといった声を耳にする度に、音訳担当者としてのやりがいを感じています。

これをきっかけに、皆さんが音訳に興味を持ち、音訳ボランティアさんが増えていったらうれしいです。



藤井 佳子 さん

点訳や音訳、
ボランティアについてなど、
詳しくはこちらへ↓

問い合わせ先
県視覚障害者センター
☎ 22-7901, FAX22-7890
ホームページ
http://shigashisho.com

読者の声

外国語版広報ひこねと出会い「真っ暗の中に光が差した」

家族と一緒に日本に来て25年。来日した当時は、私の母国語・ポルトガル語に翻訳された情報はほとんどありませんでした。生活の何もかもが大変でしたが、ある時広報ひこねのポルトガル語版に出会い、真っ暗の中に光が差してきたような気持ちになりました。

それ以来、家族にとって欠かせない情報源となり、特に子育て情報(予防接種や健康診断)では、さまざまな制度が外国人にも適用されることを知り、自分たちも、同じ「地域住民」という気持ちになれました。彦根市役所の皆さん、本当にありがとうございます。

